



情熱の踊りに夢中です!

「プリマベラ」はスペイン語の「春」。フラメンコをこよなく愛する17名の仲間が集まってできたサークルです。ALTA Shiroishi (勤労青少年ホーム)の短期講座「フラメンコ」がサークルの前身です。

フラメンコの練習が始まってはや1年。まだ基本の踊り「セビジャーナス」を習っている段階ですが、もう舞台発表も経験しました。写真は、2月に開催された仙南青年文化祭の1シーンです。当日は本当に緊張!!ペアで踊るはずが、人数の関係でシングルで踊る場面が一人一人回ってきたんです。でも、舞台って人を変えるんですね。フラメンコ用のメイクも手伝って、だんだん大胆になってきて、練習よりも上手に踊ることができました。

これからも頑張って情熱の踊り「フラメンコ」をマスターしたいと思っています。(フラメンコサークル「プリマベラ」に参加したい方はALTA shiroishi勤労青少年ホーム ☎25-3720へお問い合わせください。)



市民文芸

応募方法

一人俳句三句、短歌三首、川柳三句以内。はがきに作品・住所・氏名・応募する地名をはっきり書き、〒989-0257白石市字亘理町37-3、白石市情報センターへ。短歌、俳句、川柳の併記は不可。毎月15日締め切り。

歌壇

高橋 辰男 選

トタン屋根に垂れたる雪を棒持ちてたたき落
とせば孫等よろこぶ 八嶋 正子
ながいこと乗りしバイクの捨て難し高齢者講
習に明日は行くべく 高子うこん
三十年の長き年月ひとすじに働かし子に荒波
おそく 佐藤 とく
妹もわれも介護をする身なり今日も電話で力
付け合ふ 佐藤 ひで
蔵王嶺に雪きらめくを見つつ思ふ親子でスキ
ーしたる若き日 赤柄 とし
うららかな小春日和の庭の木にすがいの鳥の
春を告げあり 太田 敏子
ふきのとう摘んだ私に先かけて隣の友はお茶
うけに出す 斎藤タカ子
わがいとこひなの節句に持ちくれしよもぎの
餅は春の香のする 岡崎 澄子
固き土いつかおし上げ水仙の新芽並ぶをいと
おしく見る 川村 静恵
まんさくの一枝折りて帰る道逢萌え出ていよ
よ春めく 大津 重子

俳壇

遠藤 秋尾 選

新入の通学練習山笑ふ 岩沢 伍峯
農機具の手入れ始まる春隣 高橋 正男
春暁や浅き眠りも旅なれば 三浦 愛嶺
西風強く魚板鳴るなり涅槃寺 佐藤 周子
抱く子にすぐにマスクをはづされて 山家 弘子

柳壇

山田 風流 選

親の道子らは継がない過疎の里 北 ちづる
消えた火をいとしむ様な遠花火 菅野 春江
合格コール五臓六腑を踊らせて 一條 芳子
感情線安全弁が綻びぬ 小野嘉津子
流行のピンクを追えず物忘れ 佐藤 尚志
医者はしこ看護婦さんは顔なじみ 佐藤 尚志
◇浅学非才の私が選者を務めることになりました。一生懸命努力いたしますので、よろしくお願いたします。
平易な表現でもいい句は作れます。川柳を通じて、ユーモアのある明るい社会をつくりたいと思っております。初心者もどしどしご投句くださることをご期待申し上げます。評については、次号からとさせていただきます。

白石の古文書①

片倉家の北海道開拓資料①
明治元年(1868)十月九日

西南諸藩に抗戦してきた奥羽越列藩同盟のリーダーの仙台藩が降伏し、白石城主片倉家も白石城を明け渡した。

十二月七日、奥羽越諸藩に対する処分が出され、仙台藩六十二万石は二十八万石に減封、一万八千石の片倉家はわずか玄米五十五俵の給付という、誠に厳しい処分であった。さらに、明治二年四月には、隣藩の南部藩が白石に転封を命ぜられ、南部藩士の白石城下への移住が始まった。片倉家の家臣たちは俸禄を失ったうえ、屋敷まで明け渡したり、屋敷の一隅に同居させてもらうなど、ほとんど路

頭に迷うほどの生活を強いられ

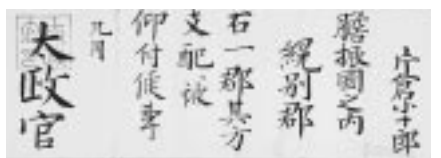
た。
この時期、明治新政府に「蝦夷地開拓」の計画のあることを知り、この窮迫した生活状態を打開すべく、片倉家全家臣が傑山寺に集まり、蝦夷地開拓参加についての会議を開いた。その結果、旧主(片倉邦憲)と一体となり、開拓参加に決し、開拓志願者の名簿を添えて嘆願書を按察府に提出した。

明治二年九月、太政官から、幌別郡を片倉家の支配地にするとの辞令を受け、翌年五月には「室蘭郡の東半を増支配地」にするとの太政官布告があった。

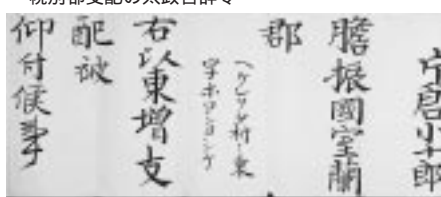
明治三年六月二十五日、第一回目の北海道開拓組十九戸の家族が寒風沢港を出港、幌別(現登別)に入植、さまざま困難のなか、移住は明治五年の秋まで続き、現在の登別市や、札幌白石区の礎を据えたとも言える。

太政官：近代の内閣制度以前の政府の最高行政機構。明治元年公布の政体書により、天下の権力総てヲ太政官ニ歸シ、太政官制度が樹立された。明治十八年に廃止され、内閣総理大臣が置かれた。

按察府：明治二年七月、東北の政情不安から、三陸・羽前・羽後・磐城地方を巡検管轄するために、白石城に置かれた役所で、明治三年九月に廃止された。



幌別郡支配の太政官辞令



室蘭郡以東の増支配の辞令

ジャスティンさん：“私は毎日、白石での生活を楽しんでいます。帰国のときは悲しいと思います。なぜなら、白石の皆さんはとても親切な人たちだからです。”

きっと皆さんは市内でステファニーさんとジャスティンさんを見かけたことがあるでしょう。次回、手を振って、「こんにちは」言ってね!



ステファニーさん(左)とジャスティンさん

国際コーナー International Corner

カロライン

今月は私の友達、ステファニーさんとジャスティンさんを紹介いたします。二人は去年の7月、オーストラリアからALT(外国語指導助手)として白石に来ました。現在、二人とも市の教育委員会に勤務し、市内の中学校を回って、明るく、やさしく英語を教えています。

ステファニーさんは、大学で日本語とイタリア語を勉強して、来白前に高等学校で教師として働いていたそうです。ジャスティンさんは、大学で経済学と法律を勉強して、来白前はマーケティング会社に勤め、テレビCM関係の仕事をしていました。

日本が初めての2人から一言どうぞ……

ステファニーさん：“日本はとても住みやすい国だと思います。今まで楽しい経験をしたんですが、もっといろいろな面白い経験をしたいし、日本のいろいろな場所に行ってみたい。将来、日本語をもっと上手に話せるようになりたいです。”